

平成最後の“しらたか古典桜の里さくらまつり” 桜が開花、笑顔は満開

4月16日、町内に6本ある古典桜の中の一つ「殿入ザクラ」が開花。今年も待ちに待った春が古典桜の里にやってきました。

「しらたか古典桜の里さくらまつり」が4月13日からスタート。釜の越農村公園では4月14日に「さくらさくらステージ part 1」が催され、さくらの保育園児によるバルーンダンスの披露や町内メンバーで結成されたダンスグループ「マルベリーズ」のダンス披露があり、多くの家族連れが来場しイベントを楽しみました。

4月20日には、メインイベント「高玉芝居」の上演と全国各地に伝わる田植え踊りのひとつ、「畔藤田植え踊り」が披露されました。この日は青空が広がり、まさに平成最後を飾る演技にふさわしいコンディションと力のこもった演技が場内を包み込み、観衆を魅了しました。

4月21日には、「さくらさくらステージ part 2」が開催され、子ども達に大人気の「たけさんのバルーンアート」と躍動感あふれる「よさこい白鷹櫻鷹會」が会場を大きく盛り上げ、町内外から訪れた多くの方がしらたかの春を楽しみました。また、同日開催された「～花ウォーク～さくら回廊そぞろ歩き」には、今年も約30人と多くの方からご参加いただき、白鷹の美味しいものを味わいながら、鮎貝駅から蚕桑駅間(約10km)のルートを歩き、町内に点在する古典桜を楽しみました。



① 高玉芝居の上演と迫真の演技に見入る観衆／② バルーンを使って元気いっぱい踊るさくらの保育園の園児たち／③ 心地よい陽気に包まれ春を楽しむ来場者のみなさん／④ 生命力あふれる殿入桜／⑤ 雲一つない青空に広がる山口奨学桜／⑥ 駕籠（かご）かきを体験する子ども／⑦ 売店では、町内の銘菓や地酒、漬物、玉こんにゃくなどでおもてなし

第64回山形県縦断駅伝競走大会 地元入り2位通過で大熱狂

第64回山形県縦断駅伝競走大会が4月27日から29日の3日間で開催され、長井・西置賜チームの選手たちはピンク色の襷（たすき）に思いを込めて走り抜けました。

今大会では、白鷹町から5人の選手が長井・西置賜チームで出走。選手の力走をひと目見ようと白鷹中継所には多くの方が集まり、地元選手に熱い声援を送りました。そして、チームはその応援に応える走り、地元入りとなった2日目を3位と快走。3日間の総合で8位という結果を収めました。

白鷹町出走者：渡部功将 選手(山口)、手塚雄一郎 選手(十王) 紺野凌 選手(萩野)、後藤光雅 選手(荒砥)、高野光 選手(深山)



白鷹中継所を2位で通過した長井・西置賜チーム

仲間とともに活躍を誓い合う 白鷹町スポーツ少年団合同結団式

4月13日、白鷹町スポーツ少年団合同結団式が荒砥小学校体育館で行われました。

今年度の団員は、19団体421人。向田俊一本部長より各団体へ団旗が授与されました。その後、団員を代表して白鷹西陸上スポーツ少年団の植木壺心くんが「誓（ちか）いのことば」を述べ、団員一人ひとりが今年1年の活躍を誓い合いました。昨年度は、白鷹中学校のサッカー部の全国大会出場や相撲界での白鷹山の十両昇進など、スポーツ分野で町全体が大きな盛り上がりを見せました。各団体の今年度の活躍も楽しみです。



「誓（ちか）いのことば」を述べる植木壺心くん

ホストタウンとして、いよいよ始動 中国ソフトボール協会と覚書締結

東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、去る3月25日から28日まで佐藤誠七町長、梅津秀明町ソフトボール協会長をはじめ町関係者が中国北京市を訪問し、中国ソフトボール協会の楊旭(ヤン・リユー)会長と懇談の後、覚書を締結しました。

具体的な内容として、今年8月29日から約10日間、若手の中国ソフトボール・ナショナルチームが白鷹町で合宿することになりました。また、9月24日から中国上海市で開催されるアジア・オセアニア地区最終予選会に、白鷹町からツアーを組んで応援に行くことも検討しています。詳細については、今後お知らせします。



握手を交わす佐藤町長と楊旭(ヤン・リユー)会長